

## 農業共済新聞 千葉版

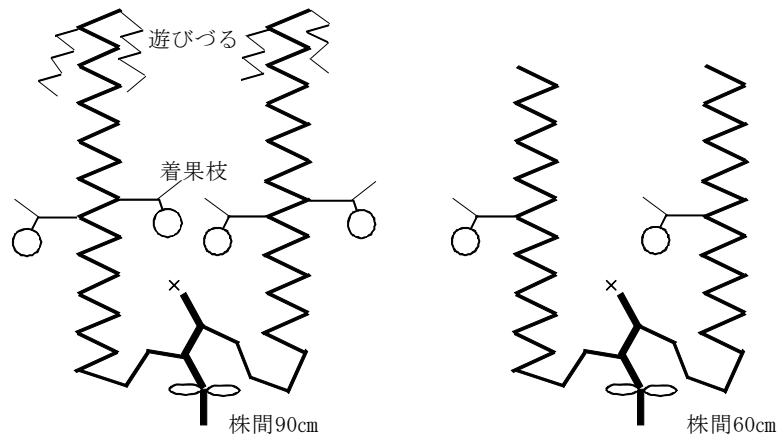
掲載号	3 月 4 週号	
筆者	所属	千葉県農林総合研究センター
	職名及び氏名	東総野菜研究室長 吉田俊郎
題名	ハウス半促成メロン栽培 長期連作圃場に適応する仕立て方	
備考	【表説明】 図1. 慣行(左)と長期連作圃場に適応した仕立て方(右) 図2. 萎れ症状が多発する圃場での栽培様式と収量	

### 【本文】

「アムス」などのメロンの栽培は、価格の低迷と各種土壌病害の発生による生産の不安定さなどから、全国的に栽培面積が減少しつつあります。他方で、大果で高品質生産をしている一部の産地や生産者は、栽培面積や所得を維持しています。そこで、長期連作圃場でも果実の肥大が良く、外観、糖度などが優れるメロンを生産するための栽培技術を紹介します。

萎れ症状が多発するハウスで「アムス」と「タカミ」を用い、株間と果実肥大や収量性の関係を比較したところ、慣行より狭い株間 60 cmで定植し、1 株子づる 2 本仕立てとし、各子づるに 1 果ずつ 1 株に 2 果着果させる方法（図 1 右）で良好な結果が得られました。この栽培様式では、遊びづるを残さなくても、2 L 規格以上の大果割合が高く、ネットの発生や果皮色が優れ、秀品収量が大幅に向上しました。また、慣行の子づる 2 本仕立て 1 株 4 果どりでは、遊びづるを残さないと糖度が約 2 度(Brix 値)低下してしまいました。

銚子地域のハウス半促成メロン栽培のうち、約30%が立ち作り栽培です。この栽培では、子づるを高さ 2 m 程度に立ち上げています。株の上部に残した遊びづるは、交配 4～5 週間後から盛んに伸長し、草勢が強い場合は果実を覆い隠すまで繁茂することが見受けられます。そこで、遊びづるの整枝作業が必要となりますが、この作業は人の肩より高い位置で行われるので重労働です。また、遊びづるへの薬剤散布にも多大の労力が掛かります。子づる 2 本仕立て 1 株 2 果どりとし、遊びづるを残さないことで、萎れ症状が少ない圃場でも大幅な軽労化が達成できます。



1株4果どり遊びづるあり      1株2果どり遊びづるなし

図1 慣行(左)と長期連作圃場に適応した仕立て方(右)

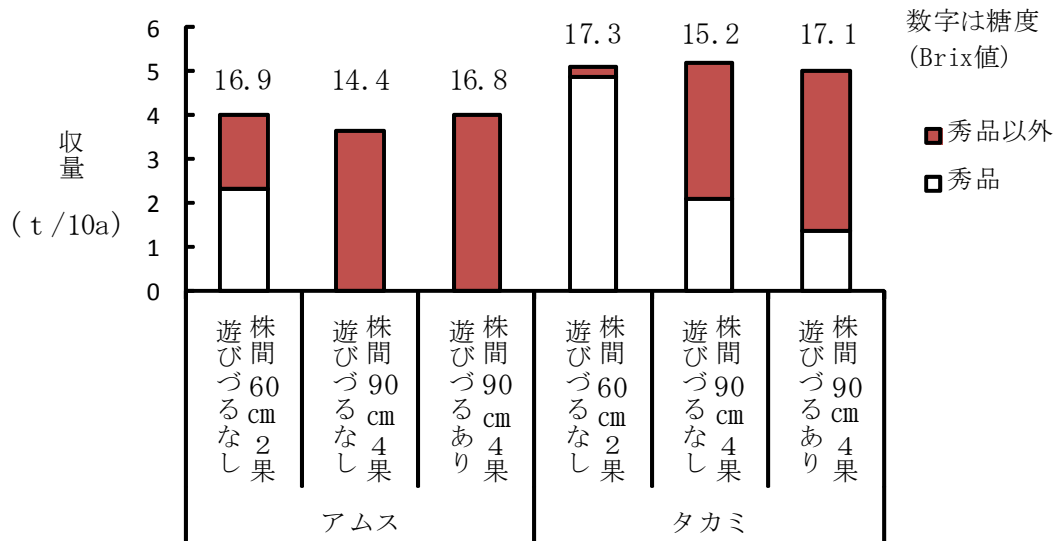


図2 萎れ症状が多発する圃場での仕立て方と収量